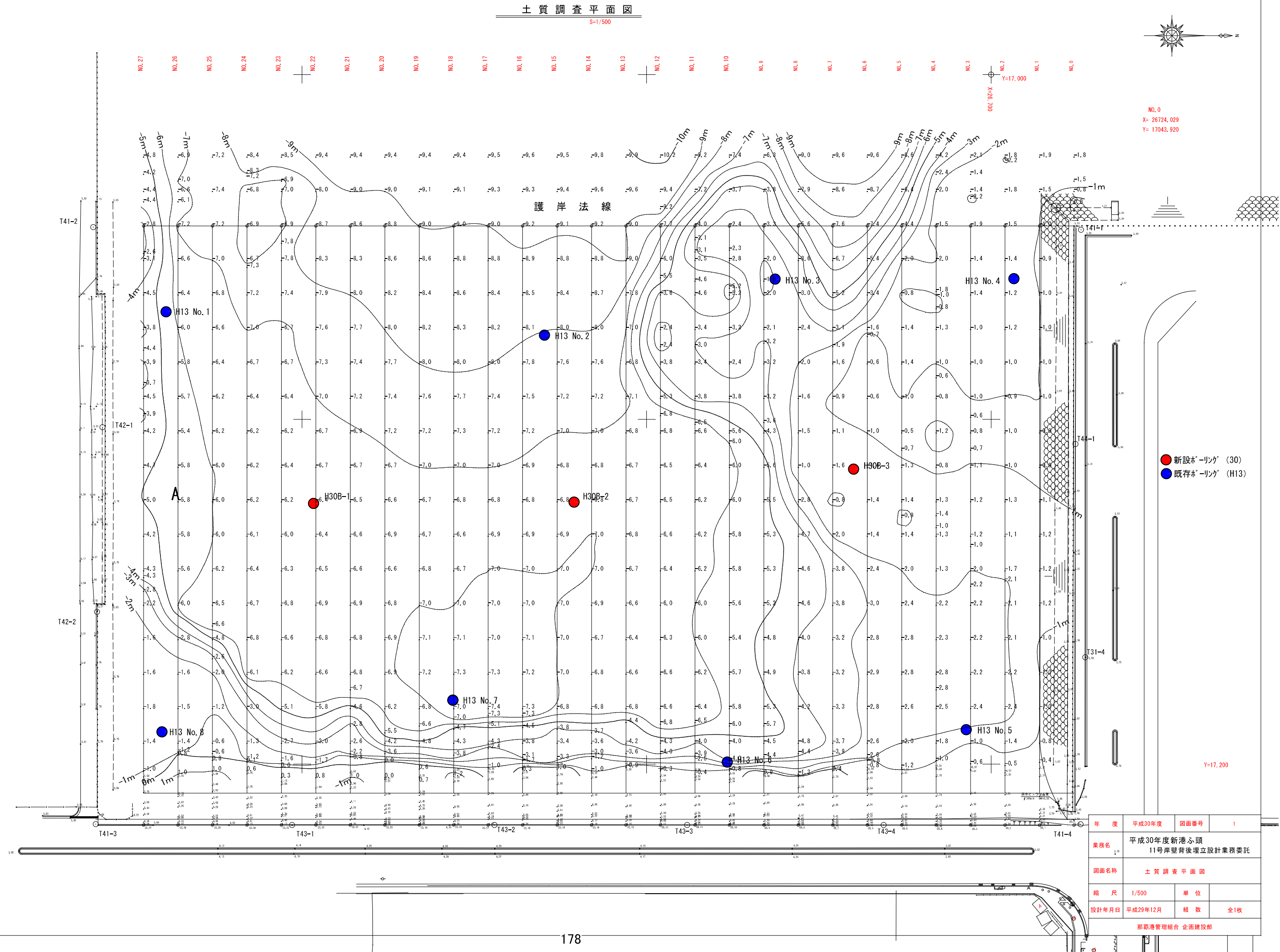
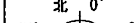




角 度		180° 上下 0°	方 向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地 盤 勾 配	鉛 直 90°	水 平 0°	使 用 機 種	現 代 理 人	場 所	コ 鑑 定 者	ア ー 	ボー グ 責 任
									試 錐 機	YBM-05		ハンマー 落下用具	トンビ
									エ ン ジ ン	ヤンマーNFAD5-K		ポ ン プ	ダイシン

[illegible]

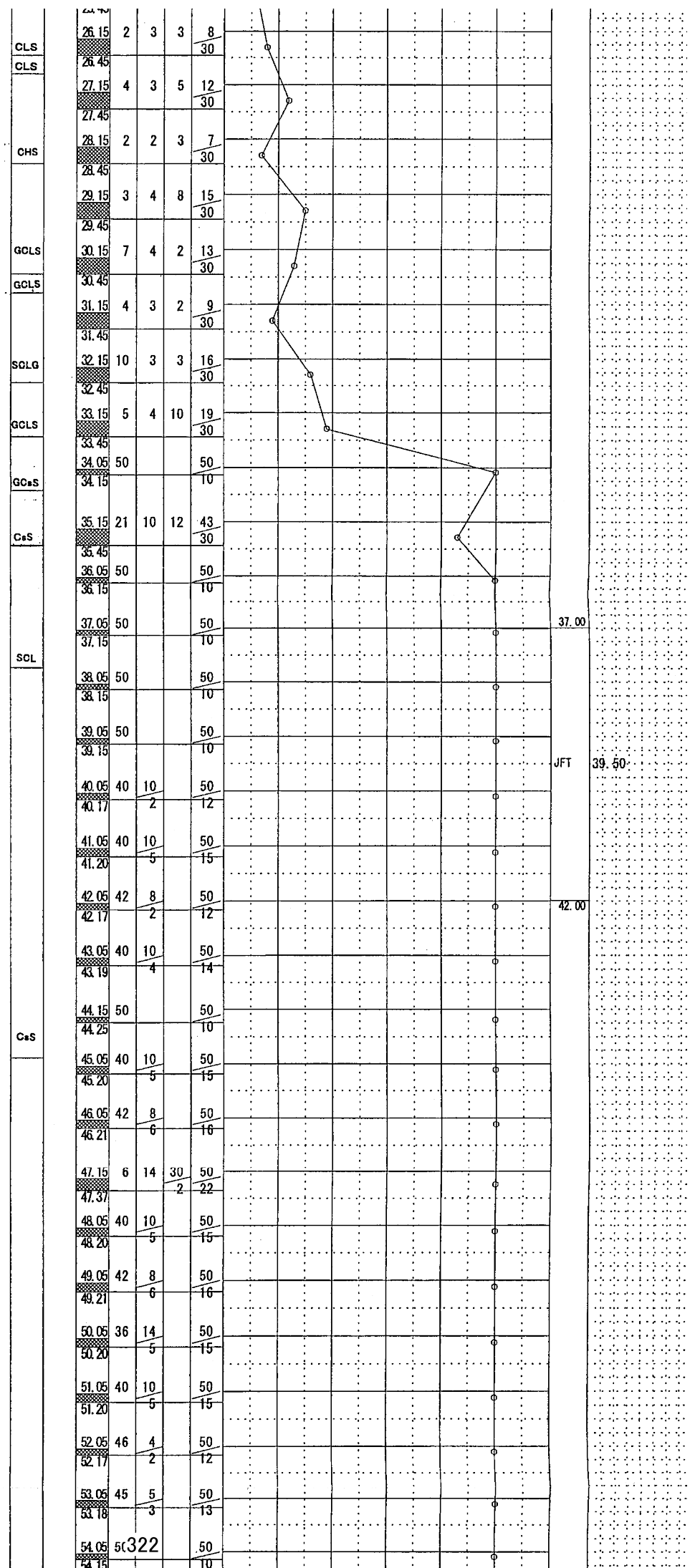
主任技師		現代 場		コ 鑑 定 者		ボーグ責	
主任技師		現代 場		コ 鑑 定 者		ボーグ責	
7m	角	180° 上下 0°	方	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 90°	使用機種
度		向		水平 0°		試錐機 YBM-05	
						エンジン ヤンマーNFAD5-K	
						ハンマー落下用具 トンビ	
						ポンプ ダイシン	

土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記 事	粒度試験による土質区分	孔内水位／測定月日	標準貫入試験						原位置試験																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
							深 度 m	10cm毎の 打撃回数			打撃回数／貫入量	N 値	深 度 m	試 験 及 び 結																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
								0	10	20																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								

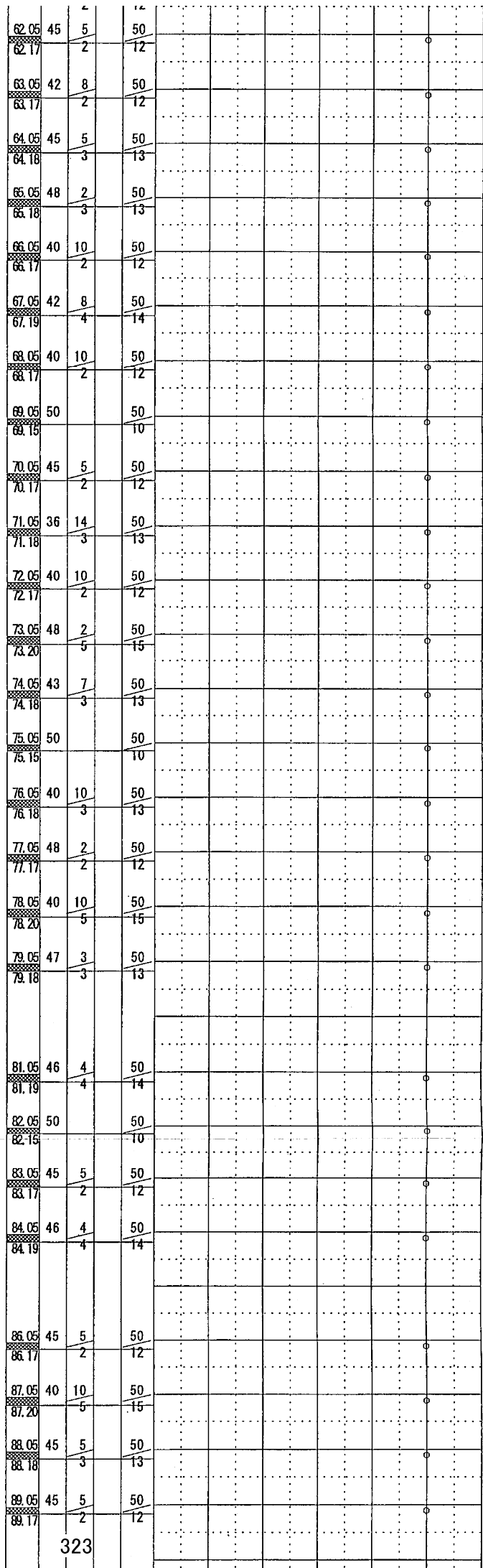
角 度	180° 上下 0°	方 向	北 0° 270° 90° 西 東 180° 南	地 盤 勾 配	水平 0° 鉛直 90°	使 用 機 種	試 錐 機	YBM-05	ハンマー 落下用具	
							エンジン	ヤンマーNFAD5-K		

色相相対対密稠度調度度			記	粒度試験による土質区分	孔内水位／測定月日	標準貫入試験				原位置試験	
			事			深 度 m	10cm毎の 打撃回数 0 10 20 J J J	打撃 回数／貫入量 30	N 値	深 度 m	試 験 名 及 び 結 果
黄褐灰	中位		上部はビーチコーラルが分布し、サンゴ礫が混入している。 GL-0.00~4.00mでは全体にφ5~20mm程度のサンゴ礫が主体である。			0.45	8	16	8	32	
						1.15	6	2	6	14	
						1.45				30	
						2.15	5	5	6	16	
						2.45				30	
						3.15	4	3	2	9	
						3.45				30	
				GCsS		4.15	1		1	30	
						4.45	30			30	
						5.15	1	1	1	3	5.50
						5.45				30	
				SMLG		6.15	1		1	2	6.00
				GCsS		6.45	20			30	6.50
						7.15	1	1	1	3	
						7.45				30	
						8.15	1		1	30	
				GCsS		8.45	30			30	
						9.15	1	1	1	3	
						9.45				30	
						10.15	2	3	2	7	
				GCsS		10.45				30	
						11.15	2	2	1	5	
						11.45				30	
						12.15	2	2	1	5	12.00
				SCsG		12.45				30	
				GCLS		13.15	2	1	1	4	12.50
						13.45				30	
						14.15	1	1	2	4	
				GCsS		14.45				30	
						15.15	1	1	1	3	
						15.45				30	
						16.15	2	1	2	5	
				GCLS		16.45				30	
						17.15	2	2	2	6	
						17.45				30	
						18.15	1	1	1	3	
				GCLS		18.45				30	
						18.45				321	

			GL-22m~24m付近及びGL-27m付近に礫が多い。 下位に従い礫径はφ10~50mm程度になり砂分も含まれる。
砂礫	茶褐	ゆるい・中位	石灰岩の円礫~亜角礫が分布する。礫は、φ3~10mm程度で比較密な状態で分布している。全体にシルト~粘土を含み、含水が高い。 石灰岩礫は砂~シルト化し風化している。
シルト質砂礫	暗灰	密な	上位はシルトを主体とする細粒土で下位に従い砂礫状となる。φ3~20mmの石灰岩礫が堆積している。含水は中程度で全体に軟かい。礫は硬質である。
砂岩	暗灰	非常に密な	シルト~細粒砂を主体とし、均質な砂岩である。固結度は低く、指で簡単に削れコアも折れやすい。
泥岩	暗灰	堅	GL-38.45m~38.60m層理面傾斜は5°である。 砂岩層に挟在する泥岩層である。固結している。
砂岩	暗灰	非常に密な	シルト~細粒砂を主体とする砂岩である。固結度は低い。泥岩の薄層が互層状に分布する。 GL-41.40m~41.50m層理面傾斜は5°である。
泥岩	暗灰	堅	砂岩層に挟在する泥岩層である。
砂岩	暗灰		シルト~細粒砂を主体とする砂岩である。固結度は低くコアは指で簡単に削れる。棒状コアも折れやすい状態である。 GL-46.8mより泥岩と砂岩の互層状を呈する。全体に硬質である。泥岩層は、層厚1.0m以内と薄い。 全体に硬質である。泥岩層は層厚1.0m以上の薄層状である。



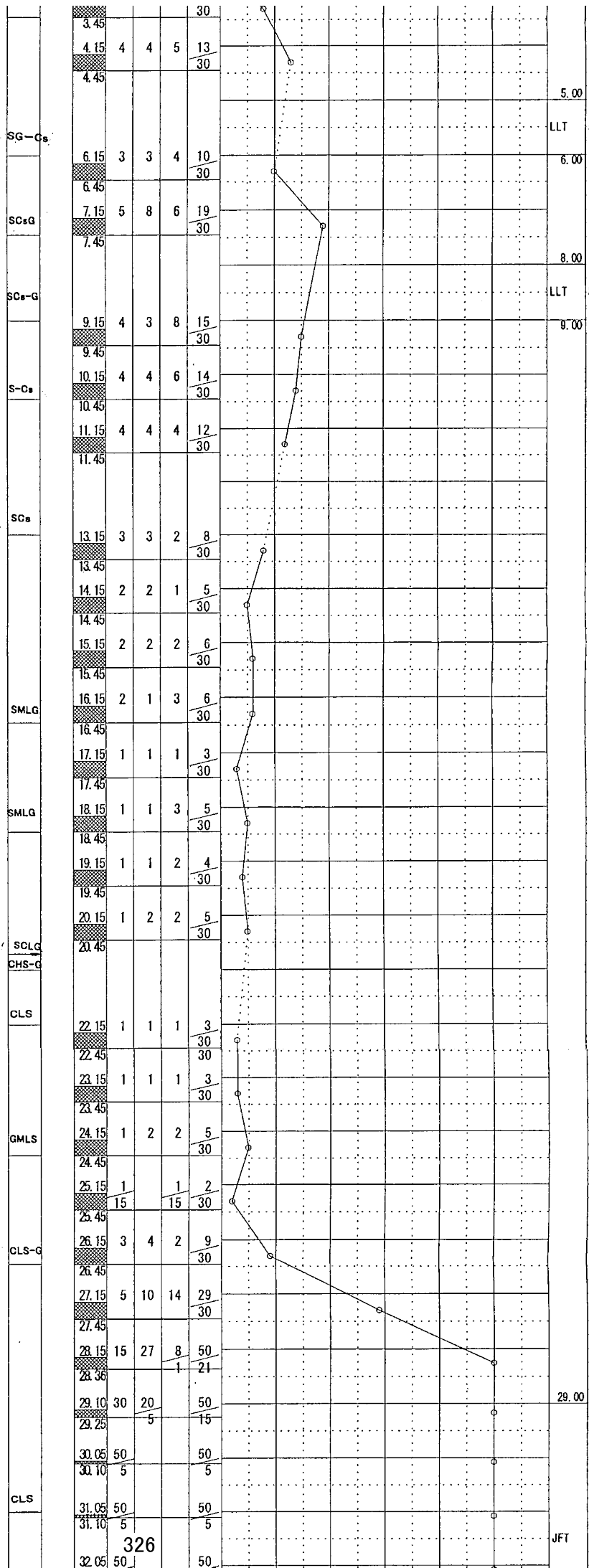
砂岩	暗灰	非常に密な	
砂岩	暗灰	非常に密な	GL-75.0m付近より連続した砂岩層となり、泥岩の薄層は分布しない。砂岩層はシルト-細粒砂の粒状で固結度が低く、指でつぶれる。コアも棒状に採取されるが折れやすい。含水は中程度である。
泥岩	暗灰	堅	GL-79.6~80.3mに泥岩を挟在する。コア採取薄層のため砂岩に変わる。
砂岩	暗灰	非常に密な	
泥岩	暗灰	堅	GL-84.5~85.6mに泥岩を挟在する。コア採取も試みるが薄層のため砂岩となる。
砂岩	暗灰	非常に密な	シルト-細粒砂を主体とする均質な砂岩である。



17m		角 度	180° 上下 0°	方 向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 0° 水平 90°	使用機種	現代 場人	コ鑑 定 者	ア	ボーグ 責
								試 錐 機	YBM-05		ハンマー 落下用具	トンビ
								エンジン	ヤンマーNFAD5-K		ポ ン プ	ダイシン

土質区分	色調	相對密度	相對稠度	記事	粒度試験による土質区分	孔内水位／測定月日	標準貫入試験					原位置試験				
							深 度 m	10cm毎の 打撃回数			打撃 回数／ 貫入量	N 値	深 度 m	試 験 及 び 結 果		
								0	10	20						
								∫	∫	∫						
							0	10	20	30	40	50	60			
礫混り砂	青灰	ゆるい		全体に中粗砂を主体とし、サンゴ礫を混入している。含水は高い。			2	2	1	5						
							0.45			30						
シルト質粘土	青灰	軟		含水比が非常に高く粘土を主体としている。シルト分を含有し枝サンゴを若干混じえる。 サンゴ礫を主体とする砂礫層である。全体に含水比が高い。	SC+G		1.15	1	1	1	3					
							1.45			30						
							2.15	0			0					
							2.45			30						
							3.15	3	2	3	8					
							3.45			30						
							4.15	4	4	5	13					
							4.45			30						
															5.00	
				GL-6.0m付近は粗砂が主体となる。枝サンゴ礫を若干混入している。	SG-Cs		6.15	3	3	4	10					
							6.45			30						
				GL-6.45~7.0m付近は粘土が主体となる。含水比が高く、枝サンゴ片が多く、貝がら片を若干混入する。	SC+G		7.15	5	8	6	19					
							7.45			30						
															8.00	
							9.15	4	3	8	15					
							9.45			30						
				GL-10.0m付近はよりほぼ均質な中～粗砂が分布する。	S-Cs		10.15	4	4	6	14					
							10.45			30						
							11.15	4	4	4	12					
							11.45			30						
サンゴ礫混り土	灰			φ=2mm前後の貝殻片が多く分布する。	SCs		13.15	3	3	2	8					
							13.45			30						
				GL-11.5m付近とGL-13.5~14.0m付近に黒色を呈する汚泥層が分布し、異臭がある。			14.15	2	2	1	5					
							14.45			30						
				GL-14.0m以深はφ=2~30mmの枝サンゴ片が多くなりシルト～粘土分が少ない。			15.15	2	2	2	6					
							15.45			30						
							16.15	2	1	3	6					
							16.45			30						
					SMLG		17.15	1	1	1	3					
							17.45			30						
							18.15	1	1	3	5					
							18.45			30						
					SMLG		19.15	1	1	2	4					
							19.45			30						
							20.15	325	2		5					

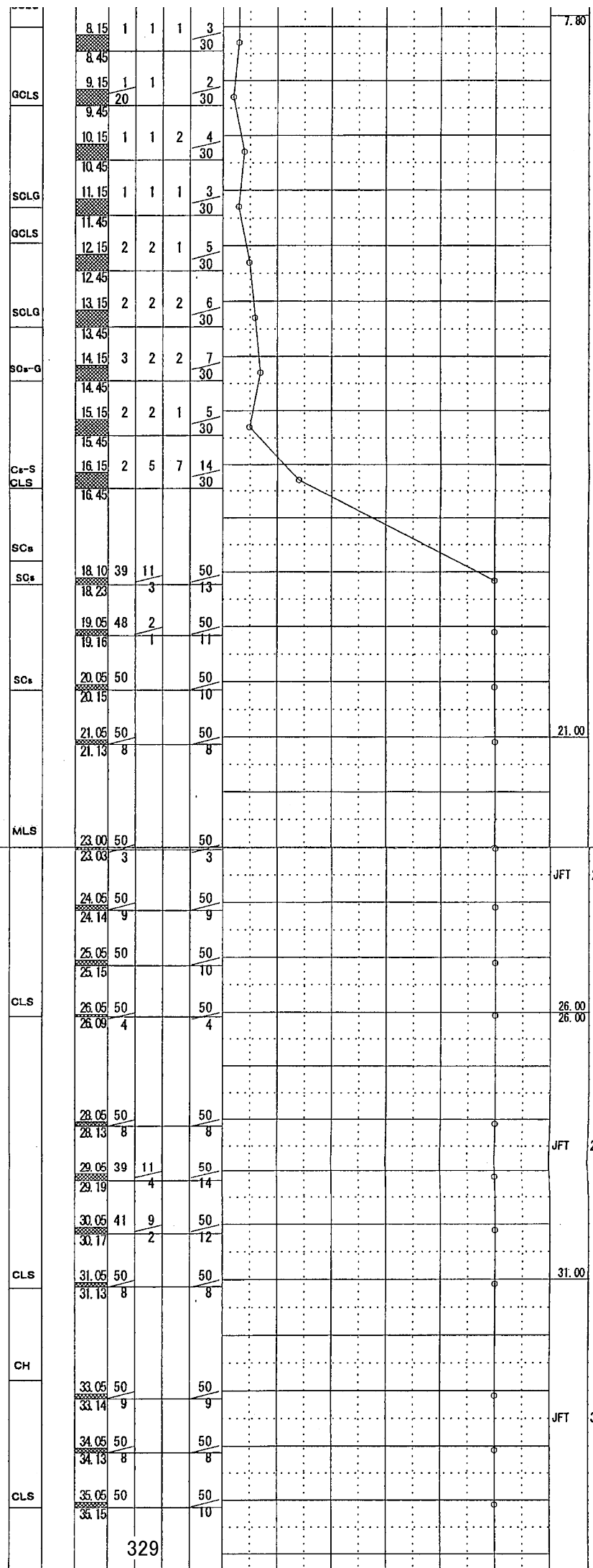
サンゴ礫混り土	灰	中位	全体に含水比が高い。 GL-6.0m付近は粗砂が主体となる。枝サンゴ礫を若干混入している。 GL-6.45~7.0m付近は粘土が主体となる。含水比が高く、枝サンゴ片が多く、貝がら片を若干混入する。 GL-10.0m付近はよりほぼ均質な中～粗砂が分布する。 φ=2mm前後の貝殻片が多く分布する。 GL-11.5m付近とGL-13.5~14.0m付近に黒色を呈する汚泥層が分布し、異臭がある。 GL-14.0m以深はφ=2~30mmの枝サンゴ片が多くなりシルト～粘土分が少ない。
		ゆるい	
礫混り粘土	黄褐灰	軟かい	シルト分を含む粘土である。含水は中程度で粘性が強い。 GL-20.7m~21.0m付近に腐植物が分布している。
砂岩	褐灰	ゆるい・中位	シルト～細粒砂を主体とする均質な砂岩である。固結度は低く指でつぶれる。砂岩層の風化帯と考えられる。含水は中程度である。
砂岩	暗灰	非常に密な	全体にシルト～細粒砂を主体とし、均質な砂岩層である。固結度は低く指で簡単につぶれる。 GL-26.0~28.0mに凝灰岩の礫（ニービの骨）が分布する。



17m		角 度	180° 上下 0°	方 向	北 0° 270° 西 180° 南 90° 東	地 盤 勾 配	鉛 直 90°	使 用 機 種	現 代 理 人	試 錐 機	コ 鑑 定 者	ア 者	ボー グ 責
								エンジン	YBM-05	ヤンマーNFAD5-K	ハンマー 落下用具	ポンプ	トンビ ダイシン

[illegible]

			んでいる。
シルト混り砂礫	灰	ゆるい	φ2~20mmのサンゴ礫を主体としている。 G L-11.00~12.00m間に砂分~シルト分を多く含有する。 G L-15.00m以深若干の粘性土を挟む。
砂岩	黄褐灰	密な	シルト~細粒砂を主体とする均質な砂岩である。固結度が低く指で簡単につぶれる。黄褐灰色を呈する砂岩層の風化部である。
砂岩	暗灰		シルト~細粒砂を主体とする均質な砂岩層である。G L-22.00m~23.00m間新鮮な岩芯を有する。全体的に固結度が低く指圧でつぶれる。また、凝灰質の礫(ニービの骨)が分布している。ナイフでキズが付く程度に硬質である。所々に泥岩質の薄層を挟む。
砂岩	暗灰	非常に密な	GL-25m付近に凝灰質の薄い岩層を互層状に混入している。 G L-27.30mまで凝灰質岩層と砂岩が互層状に分布している。GL-27m以深は均質な砂岩となる。 全体的に均質な砂岩である。G L-33mより所々に泥岩の薄層を互層状に挟む。



in	角	180° 上下 0°	方	北 0° 270° 西 180° 南 90° 東	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0°	使用機種	試錐機 YBM-05	ハンマー落下用具	トンビ
	度		向				エンジン	ヤンマーNFAD5-K	ポンプ	ダイシン

土質区分	色調	相對密度	相對稠度	記 事	粒 度 試 験 による土質区分	孔内水位／測定月日	標準貫入試験					原位置試験		
							深 度 m	10cm毎の 打撃回数			打撃回数／貫入量	N 値	深 度 m	試 験 及 び 結 果
								0	10	20				
								∫	∫	∫				
礫混り砂	青灰	中位	GL-0.00~1.00mでは全体に砂を多く含む所々にφ5~10mmのサンゴ礫を含む。 ※大半が砂である。				6	7	8	21				
サンゴ礫混り土	灰	中位・密な	GL-1.00~7.00mはφ30~50mmのサンゴ礫混り土を主体にする。細砂-シルトを含んでいる。	GML-S	0.45					30				
					1.15	6	15	13	34					
					1.45					30				
					2.15	5	5	10	20					
					2.45					30				
					3.15	50				50				
					3.25					10				
					4.00	貫入不能				50				
					4.00					0				
					5.15	5	10	15	30					
					5.45					30				
					6.15	7	3	2	12					
		6.45					30							
		7.15	3	3	4	10								
		7.45					30							
		8.15	1	1	1	3								
		8.50				15	35							
		9.15	1	2	2	5								
		9.45					30							
		10.15	3	2	1	6								
		10.45					30							
		11.15	1	3	2	6								
		11.45					30							
		12.15	2	3	2	7								
12.45					30									
13.15	1	1	4	6										
13.45					30									
14.15	3	4	6	13										
14.45					30									
15.15	3	3	4	10										
15.45					30									
16.15	17	3	7	27										
16.45					30									
17.15	26	24		50										
17.31		6		16										
18.15	23	27		50										
18.32		7		17										
19.15	20	30		50										
19.34		9		19										
20.15	20	30		50										
20.33		8		18										
21.15	5	33		50										
21.25				10										
砂岩	暗灰		シルト-細粒砂を主体とする均質な砂岩層である。GL-16.30~17.00mは砂岩の風化部である。											
			GL-17.00~19.00では泥岩と砂岩の互層である。											
			GL-19.00~22.00mでは砂岩である。指で押して凹む程度の硬さ。											

は中～多い状態であるがよく締まっている。GL-31m付近に泥岩の薄い層が分布する。

GL-32mには泥岩の薄層を互層状に混入している。泥岩層は連続性がない。

GL-38m付近には凝灰質の硬質な礫（ニービの骨）が分布する礫状であり連続性はない。

GL-39.0～40.0m付近は砂岩～泥岩互層状となる。

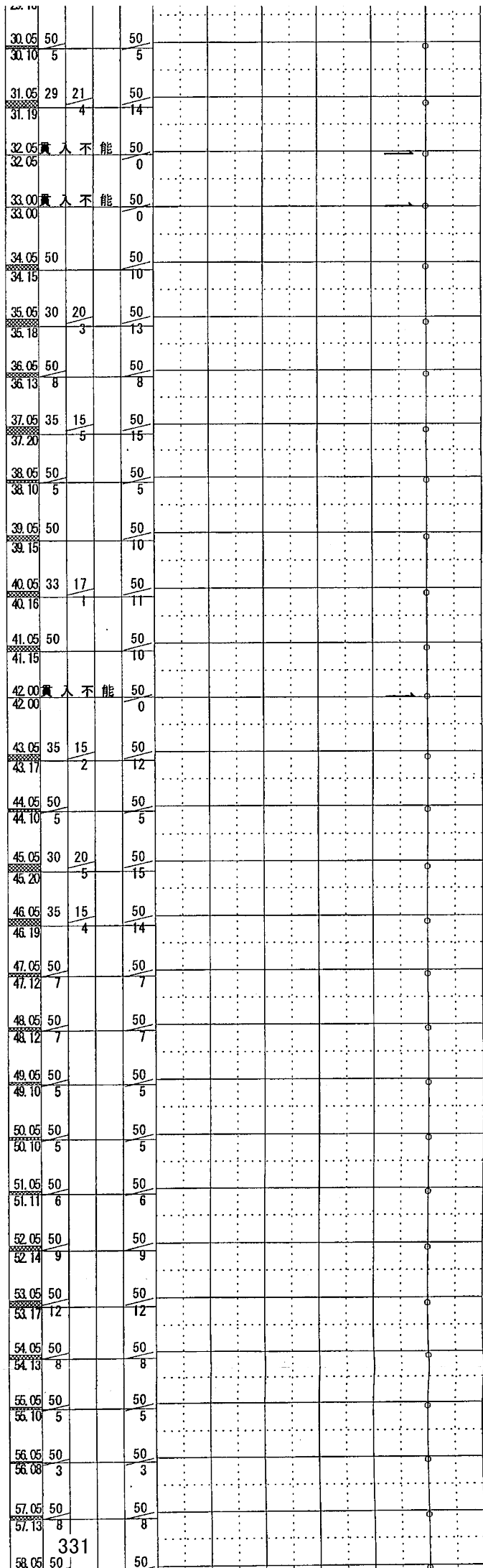
GL-40.0mより、ニービの骨が全体に混入する。硬質な岩質を呈する。

GL-47.0mより砂岩・泥岩が互層状に分布する。

GL-55.0m付近より凝灰質のニービの骨が混入する。泥岩の薄層は分布していない。

CaS

砂岩 暗灰



地層名	色	特徴	説明	深度 (m)	厚さ (m)	備考
砂岩	暗灰	非常に密な	GL-62.0~69.0mは、非常に硬質な二一ピの骨と岩片を混じえる。所々に泥岩の薄層を混入している。	64.12	7	
				65.05	50	
				65.13	8	
				66.05	50	
				66.08	3	
				67.05	50	
				67.10	5	
				68.05	50	
				68.10	5	
				69.05	50	
				69.11	6	
				70.05	50	
				70.13	8	
				71.05	50	
				71.12	7	
				72.05	50	
				72.08	3	
				73.05	50	
				73.10	5	
				74.05	50	
				74.10	5	
				75.05	50	
				75.12	7	
泥岩	暗灰	堅	砂岩層中の泥岩の挟み層である。硬質で含水は低い。	76.05	50	
				76.14	9	
砂岩	暗灰	非常に密な	シルト-細粒砂を主体とする均質な砂岩である。固結度は低く指圧でつぶれる。	77.05	50	
				77.15	10	
				78.05	50	
				78.12	7	
				79.05	50	
				79.09	4	
泥岩	暗灰	特別に硬い	固結度が高く含水が低く、硬質な泥岩層である。連続した分布は確認されない。	80.00	50	
				80.05	5	
				81.00	50	
				81.03	3	
砂岩	暗灰	極密	非常に硬質な砂岩である。二一ピの骨に当たり、緻密な岩質である。	82.00	貫入不能	
				82.00	0	
				83.00	貫入不能	
				83.00	0	
				84.05	50	
				84.09	4	
泥岩	暗灰	特別に硬い	非常に硬質で、連続性の良い泥岩層である。含水は少ない。コアは棒状で採取される。	85.05	50	
				85.08	3	
				86.05	50	
				86.08	3	
			GL-86.28~86.33mに砂岩の薄層が分布する。	87.05	50	
				87.07	2	
				88.05	50	
				88.07	2	

ボーリング柱状図

調 査 名 平成30年度新港ふ頭11号岸壁背後埋立設計業務委託

ボーリングNo

事業・工事名

シートNo

ボーリング名	H 3 0 B - 1			調査位置		新 港 ふ 頭 内					北 緯				
発 注 機 関						調査期間		平成 31年 1月 11日 ~ 31年 1月 16日					東 経		
調 査 業 者 名	電話			主任技師		現 場 代 理 人		コ ア 鑑 定 者				ボーリング 責 任 者			
孔 口 標 高	DL= -6.4m	角 180° 上 90° 下 0°	方 北 0° 0° 東 270° 西 180° 南	地盤 勾配	鉛直 90° 水平 0°	使用 機種	試 錐 機		Y B M - 0 5 0 A - 2		ハンマー 落下用具		半自動落下装置		
総 掘 進 長	20.30m						エンジン		ヤ ン マ ー T F 9 0 V - E		ポ ン プ		タ イ シ ン S R 5 5		

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状 図	土質 区分	色調	相対 密度	相対 稠度	記 事	孔内 水位 (m) ／測定 月日	標準貫入試験						原位置試験		試料採取			室内 試験 (掘進 月日						
											深 度 (m)	10cmごとの 打撃回数			打撃 回数 ／貫入 量 (cm)	N 値	深 度 (m)	試 験 名 および 結果 ()	深 度 (m)	試 料 番 号	採 取 方 法							
												0 〃 10	10 〃 20	20 〃 30														
1					シルト質砂	淡灰			沖積層 砂が主体で礫の混入が観られない 細砂が主体でシルト分を含む 砂の相対密度は、緩い～非常に緩い 状態である		1.15	2	2	4	8 30	8												
2	-8.90	2.50	2.50								1.45																	
3					シルト質粘土	淡灰			沖積層 礫が含まない粘性土を主体とする シルト分が多く含水比が高めである 粘土のコンシステンシーは非常にや わらかい		2.15	1	1	1	3 30	3												
4	-10.40	1.50	4.00								2.45																	
5					礫混じり砂	淡白灰			沖積層 サンゴ礫を含む砂層を呈する 礫径φ=5～30mm程度で枝サンゴを主 体とする 貝殻片の混入が観られる 砂は中砂～細砂を主体とする 砂の相対密度は、緩い～非常に緩い 状態である		3.15	1			1 30	1												
6	-12.90	2.50	6.50								3.45	2	3	2	7 30	7												
7					シルト質砂礫	淡灰			沖積層 全体的にサンゴ礫が多く含む砂礫層 を呈する 礫径φ=5～30mm程度で枝サンゴを主 体とする 貝殻片の混入も観られる 砂は中砂～細砂を主体とする シルトの混入が多く観れる 砂の相対密度は、緩い～非常に緩い 状態である		4.15				1 30	1												
8											4.45																	
9											5.15	1	2	2	5 30	5												
10											5.45																	
11											6.15	1	1		2 30	2												
12											6.45	1	1		2 30	2												
13	-19.40	6.50	13.00								7.15	2	2	1	5 30	5												
14					礫混じり砂	淡灰			沖積層 全体的に砂を主体とする 枝サンゴ混入が観れる 礫径φ=5～30mm程度である 砂の相対密度は、中位の状態である		7.45				1 30	1												
15	-21.25	1.85	14.85								8.15	1	1	2	4 30	4												
16					シルト質砂礫	淡灰			沖積層 全体的にサンゴ礫が多く含む砂礫層 を呈する 礫径φ=5～30mm程度で枝サンゴを主 体とする 貝殻片の混入も観られる 砂は中砂～細砂を主体とする シルトの混入が多く観れる 砂の相対密度は、緩い～非常に緩い 状態である		8.45				2 30	2												
17											9.15	1	1		2 30	2												
18											9.45																	
19											10.15	1	1	2	4 30	4												
20	-26.70	5.45	20.30								10.45	2	1		3 30	3												
21					シルト質砂礫	淡灰			沖積層 全体的にサンゴ礫が多く含む砂礫層 を呈する 礫径φ=5～30mm程度で枝サンゴを主 体とする 貝殻片の混入も観られる 砂は中砂～細砂を主体とする シルトの混入が多く観れる 砂の相対密度は、緩い～非常に緩い 状態である		11.15	2	1		3 30	3												
22											11.45																	
23											12.15	1			2 30	2												
24											12.45																	
											13.15	2	3	4	9 30	9												
											13.45																	
											14.15	5	4	4	13 30	13												
											14.45																	
											15.15	20	30		50 20	75												
											15.35																	
											16.15	27	23		50 15	100												
											16.30																	
											17.05	16	30	4	50 21	71												
											17.26																	
											18.05	15	23	12	50 24	63												
											18.29																	
											19.05	15	20	15	50 25	60												
											19.30																	
											20.05	14	19	17	50 25	60												
											20.30																	

185

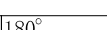
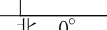
ボーリング柱状図

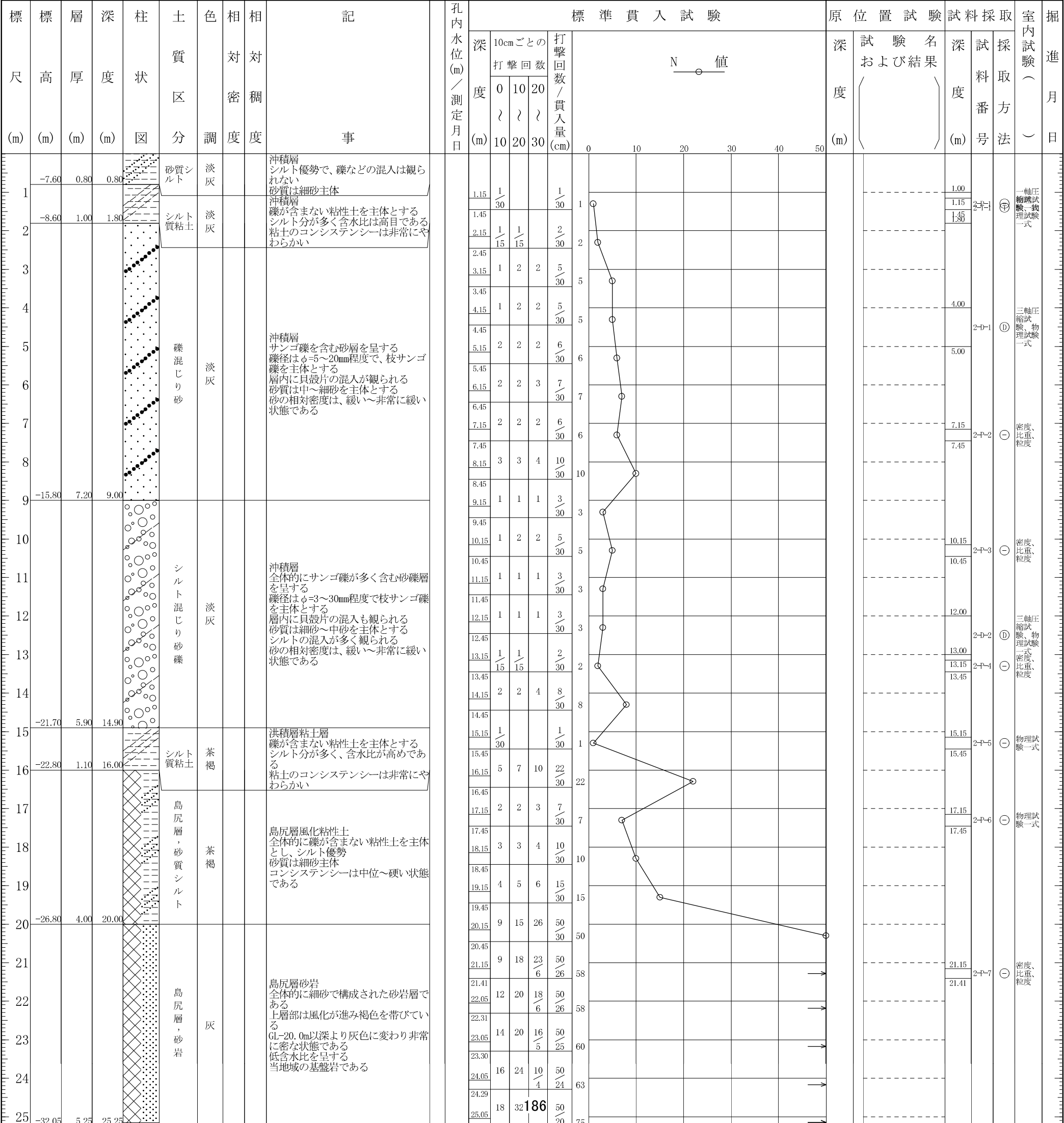
調 査 名 平成30年度新港ふ頭11号岸壁背後埋立設計業務委託

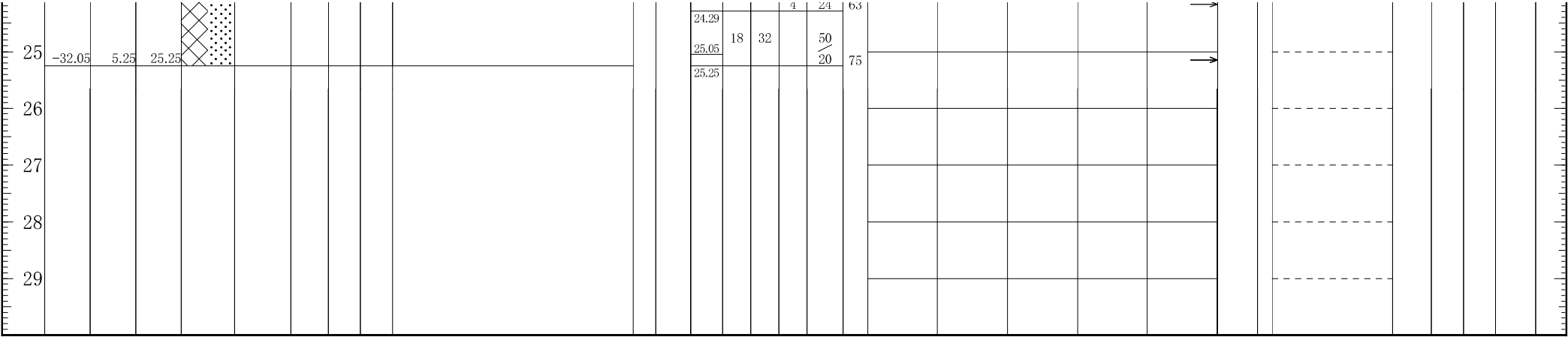
ボーリングNo

事業・工事名

シートNo

ボーリング名	H30B-2				調査位置		新港ふ頭内					北緯				
発注機関								調査期間		平成31年1月17日～31年1月18日				東経		
調査業者名	電話				主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者					
孔口標高	DL=-6.8m	角 度		方 向		地盤勾配		使用機種	試錐機		ハンマー落下用具		半自動落下装置			
総掘進長	25.25m								エンジン		ポンプ		タイシンSR55			

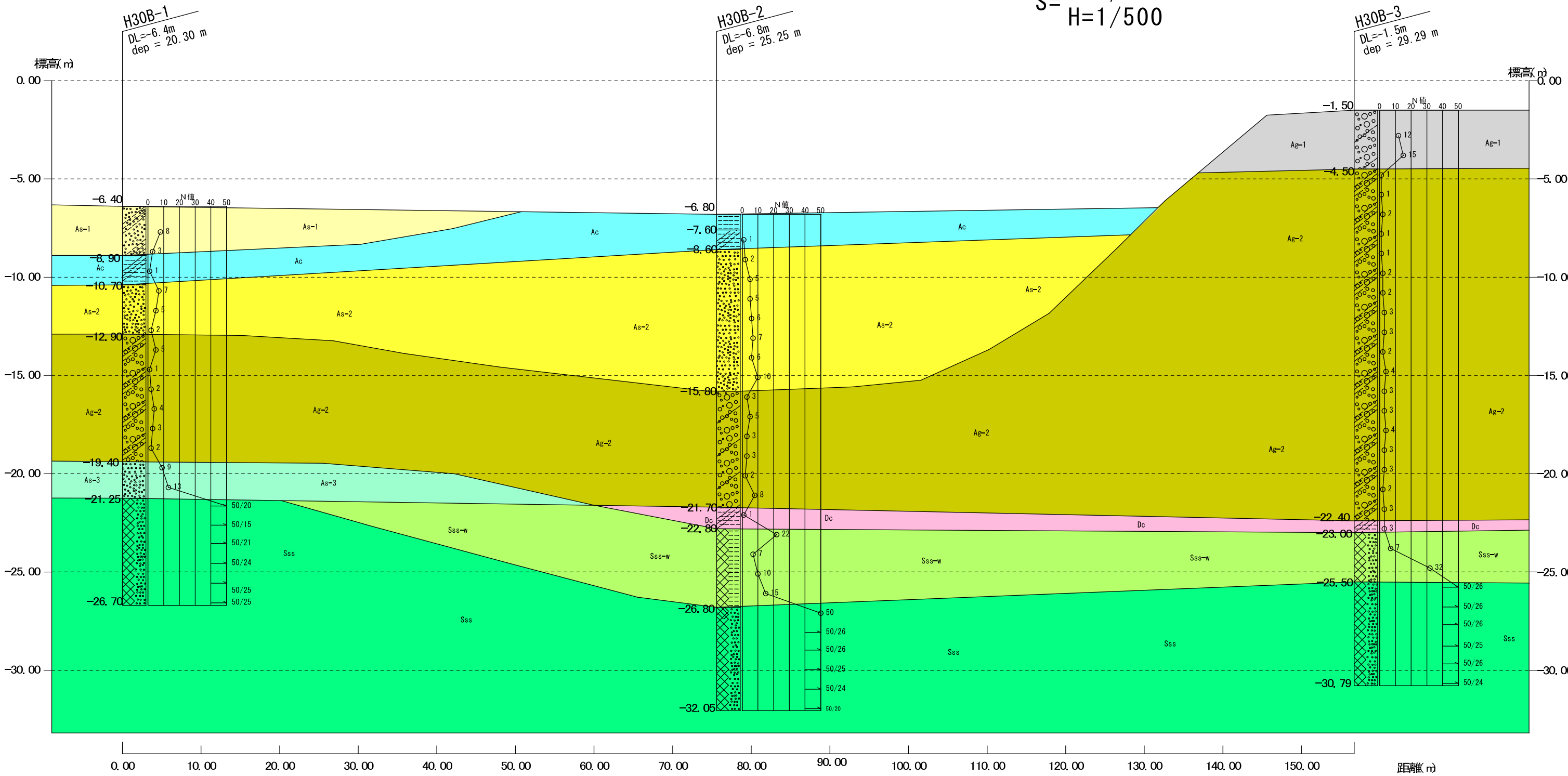




土 層 推 定 断 面 図

A-A' 断面図

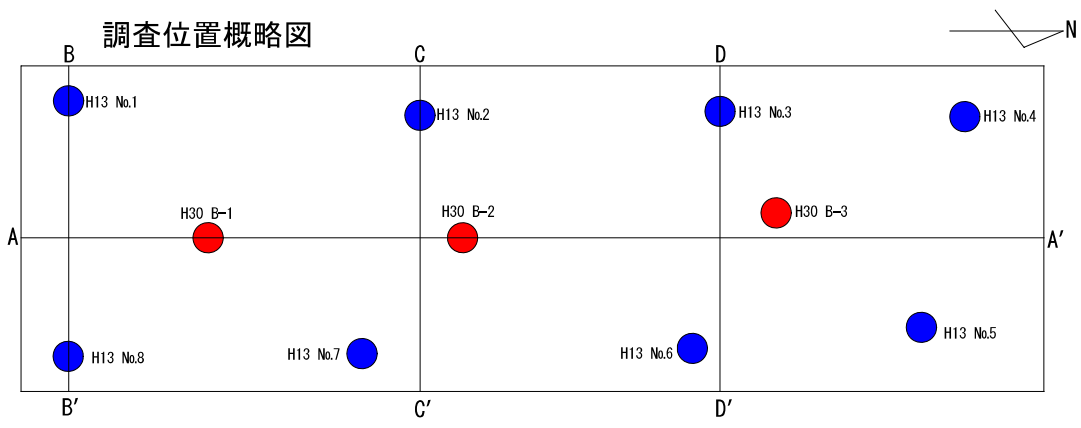
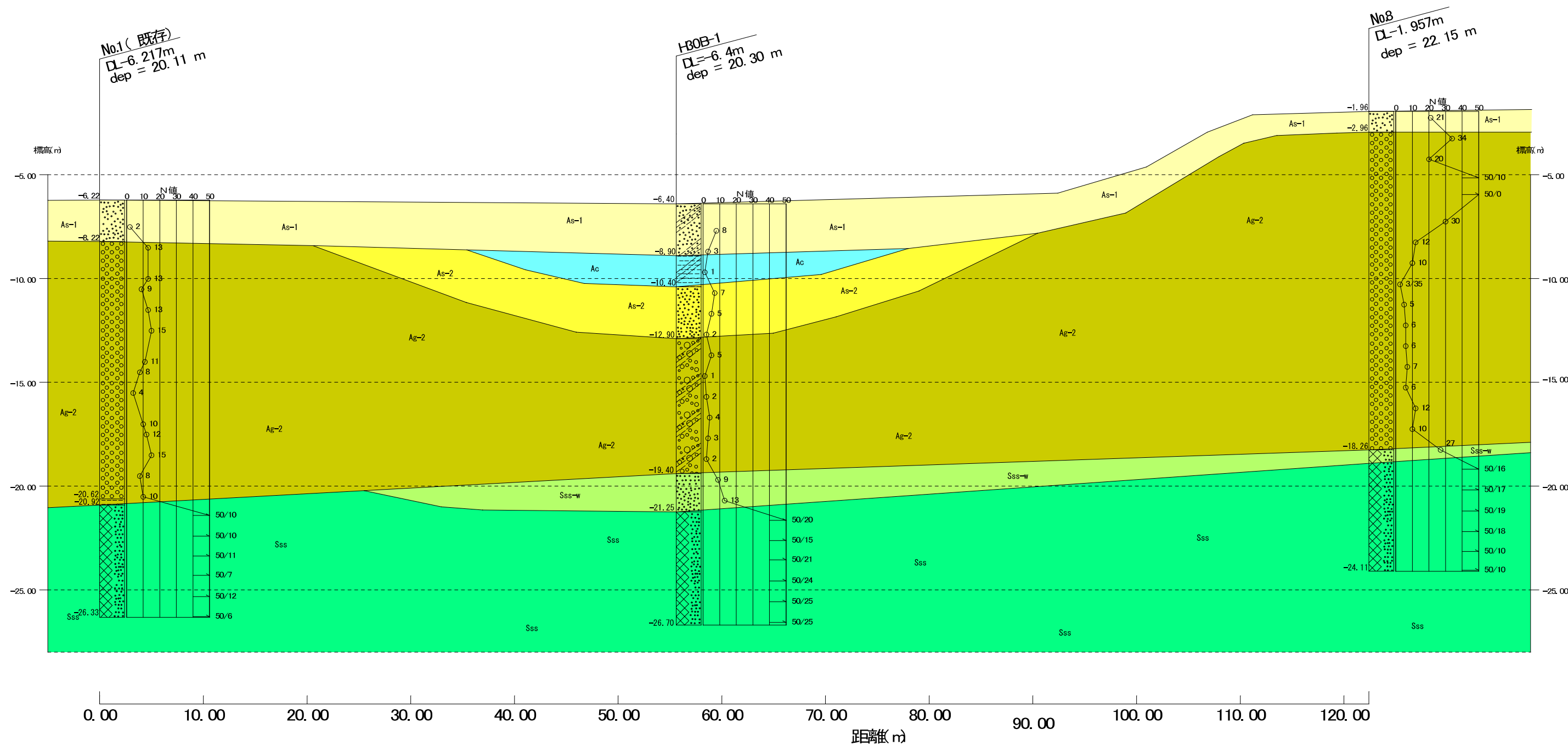
S= V=1/200
H=1/500



地質時代		地層名	記号	地質	層相・構成	N値	特 徴	
新生代	第四紀	完新世	沖積層	As-1	砂質土	シルト質砂	3～8	礫の混入が顕著でない砂主体である。 若干のシルトを含む。
				Ag-1	サンゴ混じり土	シルト混じり砂礫	12～15	上部は再結晶した岩塊を形成している。 下部は強い枝サンゴを主体とする。
				Ac	粘性土	シルト質粘土	1～2	若干の礫を含む粘性土を主体とする。 高含水比で弱層を形成する。
				Ag-2	サンゴ混じり土	シルト混じり砂礫 シルト質砂礫	1～8	全体的に枝サンゴを主体とする砂礫層である。 シルトを混入し含水比が高く、緩い状態の土質である。
				As-2	砂質土	礫混じり砂	2～10	全体的に砂を主体とし、枝サンゴが混入する。 全体的に緩い～非常に緩い土質である。
				As-3	砂質土	礫混じり砂	9～13	全体的に砂を主体とし、枝サンゴが混入する。 全体的に中位な土質である。
	更新世	洪積層	Dc	粘性土	シルト質粘土	1～3	高含水比の粘土で、非常に柔らかい～中位な土質である。 島尻層風化の粘性土を呈している。	
	第三紀	鮮新世	島尻層	Sss-w	砂岩	砂質シルト・シルト質砂	7～32	島尻層風化層でN値が低下している。
				Sss	砂岩	細粒砂岩主体	50以上	砂質が均一な島尻層群砂岩層である。

B-B' 断面図

S= V=1/200
H=1/400

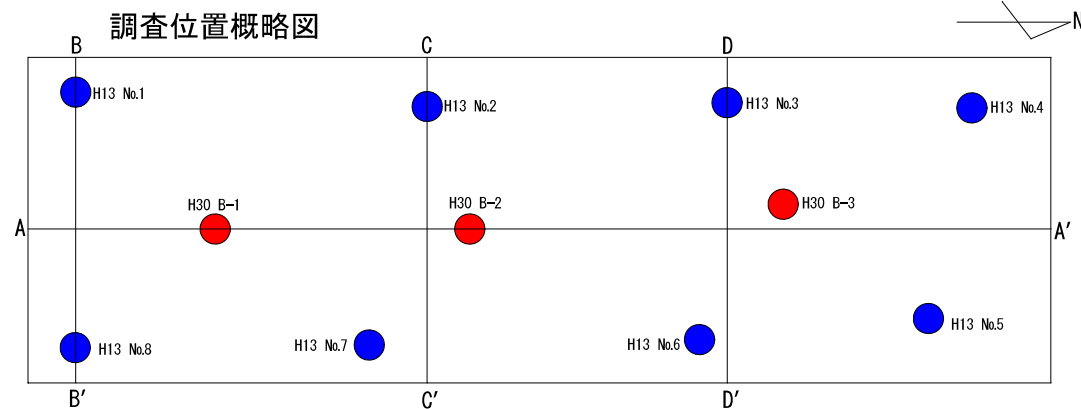
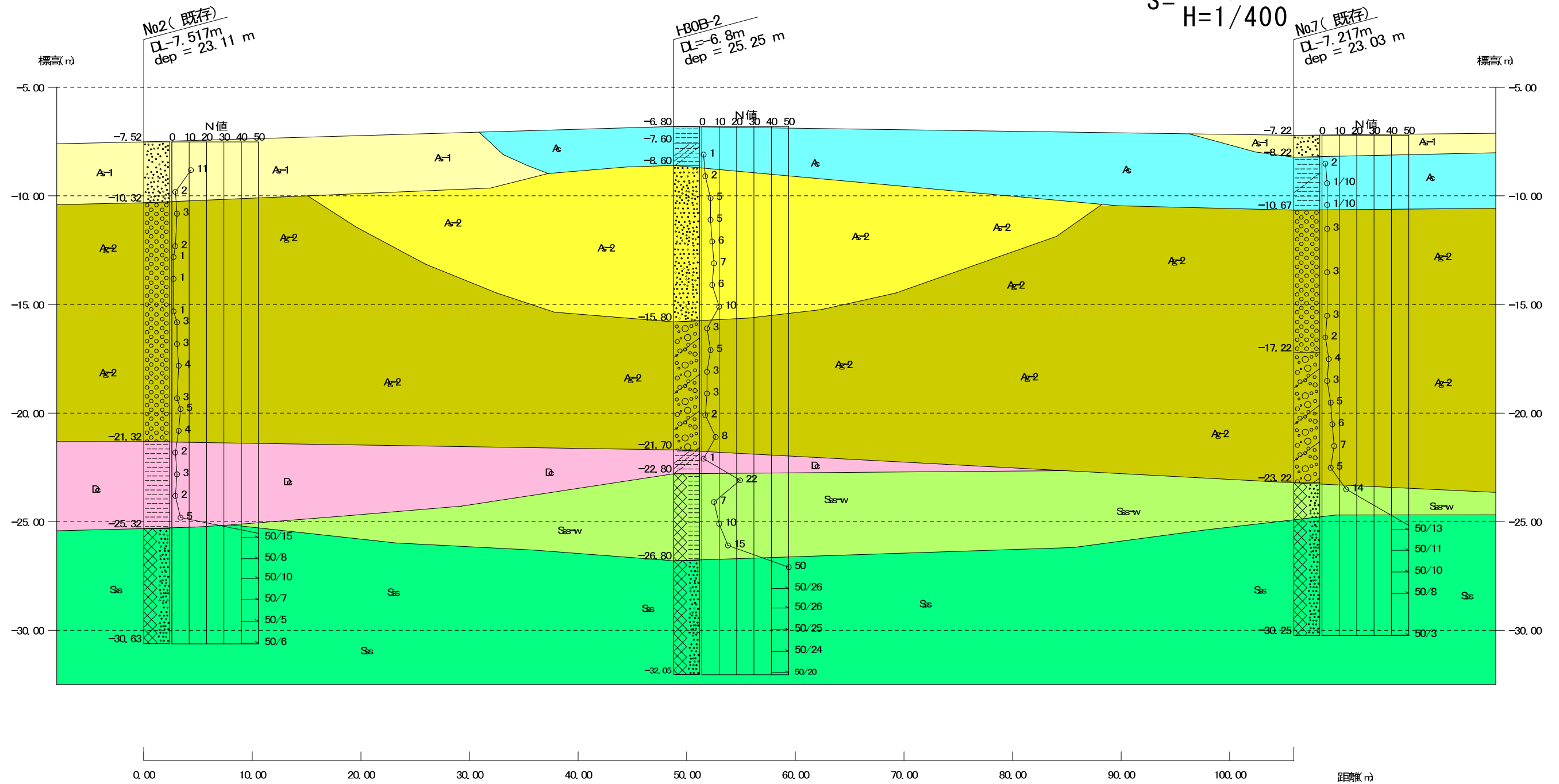


凡例

地質時代	地層名	記号	地質	層相・構成	N値	特 徴		
新生代	第四紀	完新世	As-1	砂質土	シルト質砂	3~8	礫の混入が顕著でない砂主体である。 若干のシルトを含む。	
			Ag-1	サンゴ混じり土	シルト混じり砂礫	12~15	上部は再結晶した岩塊を形成している。 下部は硬い枝サンゴを主体とする。	
			Ac	粘性土	シルト質粘土	1~2	若干に泥含む粘性土を主体とする。 高含水比で弱層を形成する。	
			Ag-2	サンゴ混じり土	シルト混じり砂礫 シル質砂礫	1~8	全体的に枝サンゴを主体とする砂礫層である。 泥を混入し含水比が高く、緩い状態の土質である。	
			As-2	砂質土	礫混じり砂	2~10	全体的に砂を主体とし、枝サンゴが混入する。 全体的に緩い〜非常に緩い土質である。	
			As-3	砂質土	礫混じり砂	9~13	全体的に砂を主体とし、枝サンゴが混入する。 全体的に中位な土質である。	
	更新世	洪積層	Dc	粘性土	シルト質粘土	1~3	高含水比の粘土で、非常に柔らかい〜中位な土質である。 島尻層風化層の粘性土を呈している。	
	第三紀	鮮新世	島尻層	Sss-w	砂岩	砂質シルト・シルト質砂	7~32	島尻層風化層でN値が低下している。
				Sss	砂岩	細粒砂岩主体	50以上	砂質が均一な島尻層群砂岩層である。

C - C ' 断面図

S= V=1/200
H=1/400

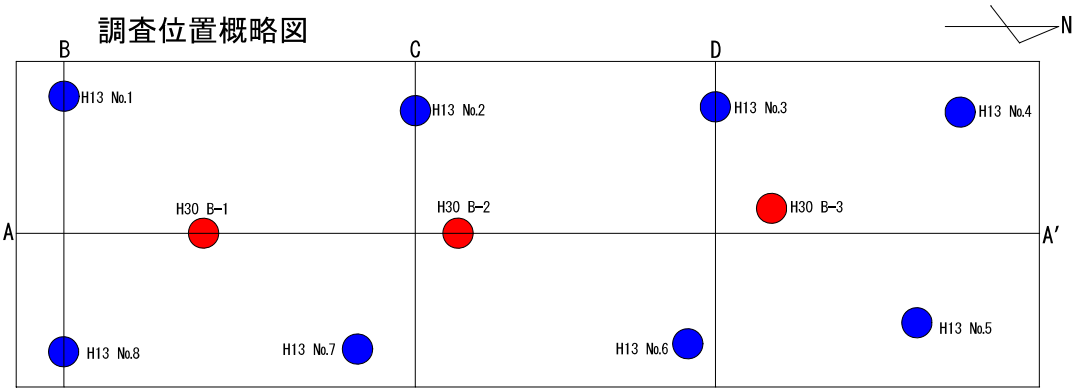
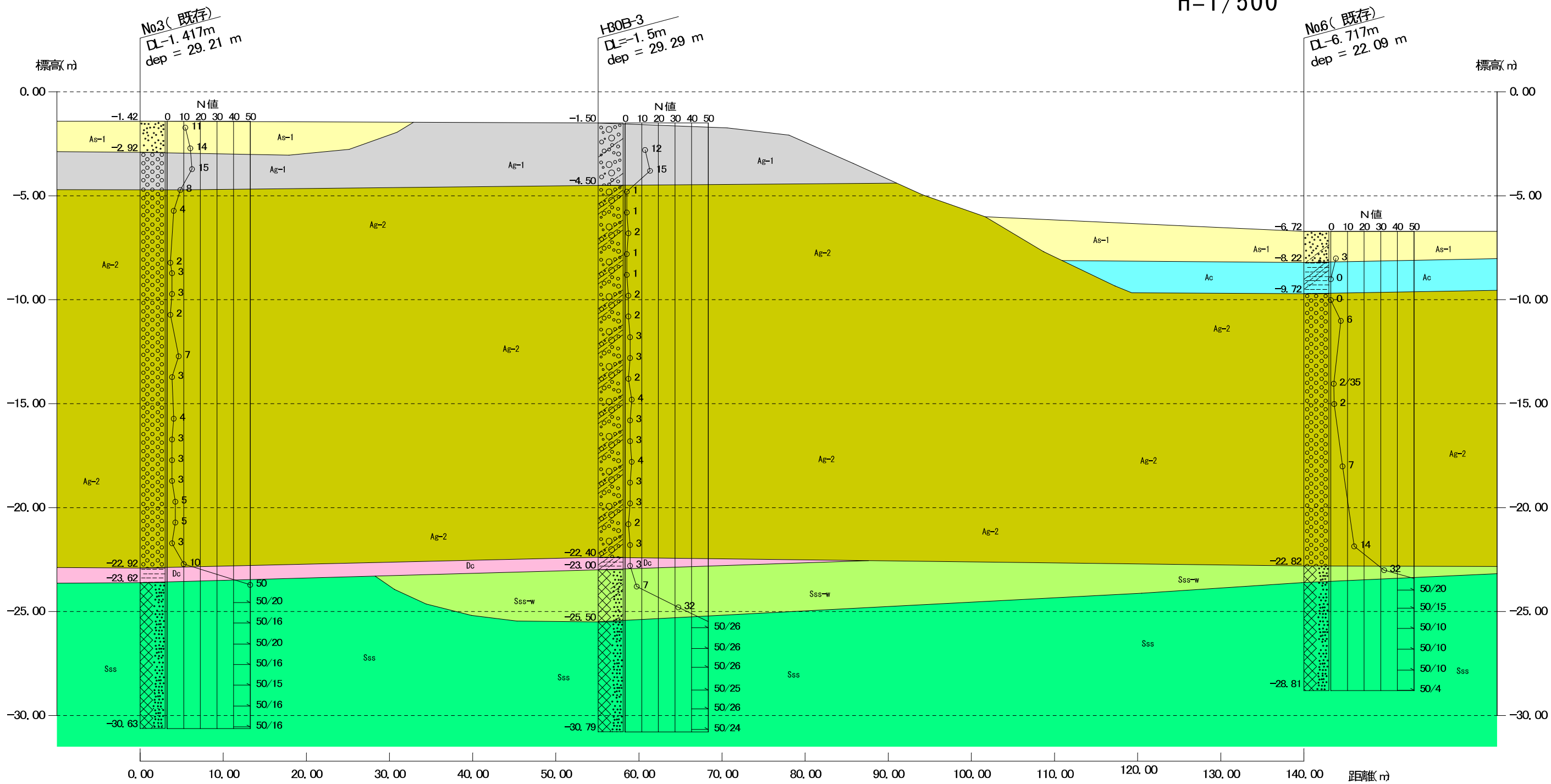


凡例

地質時代	地層名	記号	地質	層相・構成	N値	特 徴
新生代	第四紀 更新世	As-1	砂質土	シルト質砂	3~8	礫の混入が顕著でない砂主体である。若干のシルトを含む。
		Ag-1	サンゴ混じり土	シルト混じり砂礫	12~15	上部は再結晶した岩塊を形成している。下部は硬い枝サンゴを主体とする。
		Ac	粘性土	シルト質粘土	1~2	若干のシルトを含む粘性土を主体とする。高含水比で弱層を形成する。
		Ag-2	サンゴ混じり土	シルト混じり砂礫	1~8	全体的に枝サンゴを主体とする砂礫層である。シルトを混入し含水比が高く、緩い状態の土質である。
		As-2	砂質土	礫混じり砂	2~10	全体的に砂を主体とし、枝サンゴが混入する。全体的に緩い〜非溜二級土質である。
		As-3	砂質土	礫混じり砂	9~13	全体的に砂を主体とし、枝サンゴが混入する。全体的に中位土質である。
	更新世 洪積層	Dc	粘性土	シルト質粘土	1~3	高含水比の粘土で、非常に柔らかい〜中位土質である。島尻層風化層の粘性土を呈している。
第三紀	鮮新世 島尻層	Ss-w	砂岩	砂質シルト・シルト質砂	7~32	島尻層風化層でN値が低下している。
		Ss	砂岩	細粒砂岩主体	50以上	砂質が均一な島尻層群砂岩層である。

D-D' 断面図

$S = \frac{V}{H} = \frac{1}{200}$
 $H = \frac{1}{500}$



地質時代		地層名	記号	地質	層相・構成	N値	特 徴
新生代	第四紀	完新世	As-1	砂質土	シルト質砂	3~8	礫の混入が顕著でない砂主体である。若干のシルトを含む。
			Ag-1	サンゴ混じり土	シルト混じり砂礫	12~15	上部は再結晶した岩塊を形成している。下部は強い枝サンゴを主体とする。
			Ac	粘性土	シルト質粘土	1~2	若干に泥を含む粘性土を主体とする。高含水比で弱層を形成する。
			Ag-2	サンゴ混じり土	シルト混じり砂礫	1~8	全体的に枝サンゴを主体とする砂礫層である。泥を混入し含水比が高く、強い状態の土質である。
			As-2	砂質土	礫混じり砂	2~10	全体的に砂を主体とし、枝サンゴが混入する。全体的に強い〜非常に強い土質である。
			As-3	砂質土	礫混じり砂	9~13	全体的に砂を主体とし、枝サンゴが混入する。全体的に中位な土質である。
	更新世	洪積層	Dc	粘性土	シルト質粘土	1~3	高含水比の粘土で、非常に柔らかい〜中位な土質である。鳥居層強化の粘性土を呈している。
	第三紀	鮮新世	Sss-w	砂岩	砂質シルト・シルト質砂	7~32	鳥居層強化層でN値が低下している。
			Sss	砂岩	細粒砂岩主体	50以上	砂質が均一な鳥居層群砂岩層である。